

8月になりました。

この所のニュースを見ていると女性の動向が伝えられるものがとても目につきます
海外では大統領候補や永年の迫害に耐え国を変えようとしている人などおられますが
日本ではまだまだ・・・とだって女性の発言や女性に対する発言に
男性陣が右往左往している状況ですものね

かく言う私も女性の分類に入ります。そして一応理事長なんて肩書がある手前
「活躍している女性」の末端に入るのかもしれませんがね。

そんな私が、理事長名刺を出す時はちょっと心の準備をしてから出す事にしています。
と言うのは名刺を受けた男性の大半が「貴方が理事長さんですか?」「いや—ご立派ご立派!と
妙に感心されたり、驚かれたりする事が多々あるからです。その様な時のリアクションには
とても困るのでとりあえず・・・へらへら?ニコニコしています。

これが男性だったら・・・それもそれなりの年齢になっている男性なら、
まずそういう挨拶にはならないのか?と思うのですが・・・。

私の小さい頃は男女の差別や区別が問題になる事はまずありませんでした。
それは「あって当たり前の事」だったからですよ。

99%の人間が「そういう区別があるので、世の中は正しくまわっている」のだと
信じていたのだと思います。 常識というやつです。

「女の子らしくしなさい」という母は常識的な良い母親。カーボーイに憧れ
二丁拳銃を欲しいと願う私と、それを買ってくる父は正しくない者として
父娘セットで母に怒られる事になりました。

「お父さんが甘やかすから男の子みたいになるのよ」って・・・変な会話でしょ?
私は年に一度の誕生日プレゼントに欲しいものを望んだら変な子なのか?
かわいいお人形やおままごとをいっぱい買ってきたら甘やかしていないのか?

子ども心に母の矛盾に違和感を感じて、その意図する所が全く理解できなかったのであります。
そんな中でも天は私を見捨てませんでした。

最先端モデルの二丁拳銃は私を同じ趣味をもつ者の交流のツールとなりその後も野球や音楽な
ど好きな事が一緒の大切な仲間として扱ってくれました。

「お転婆」から「オトコオンナ」とか「中性」と格上げされつつも、そのキャラは健在でした。
中学生になった頃には「あいつはそういうやつなんだ」と言う事が常識となり
母と家庭科の先生を除いてそのキャラに嘆く人はいなくなりました。

しかし、高校生になると容姿の問題や女性の方がちょっと得かもしれない?という
私自身の意識や判断力も備わり小さい頃とは違うもう一人の自分が表れる様になってきました。
そう・・・今ならおネイキャラか?宝塚風キャラというか?男女どっちでもない・・・両方な感じです。
それが私。子どものころに常識に自分を閉じ込めていたら本当に変な子になっていたかも・・・

今しっかりわかります。個々のキャラクターをそのまま受け入れられる社会があるべきだと・・・
それには年齢も性別も障害のあるなしなんて言う肩書きの様なものに惑わされず
一緒にあそんだり、仕事したり、普通に自然にいられる事できる人達が
新しい常識を作っていく。人類を大きく成長させるのだと思います。

8月27日土曜日 ダーツという遊びでみんなと一緒に楽しめれば良いと思っています
新しい自分や仲間を見つける事もできますよ そんな事をツラツラ思い出した8月です。



とにかくカーボーイが好き
でした 憧れた!
この人誰だかわかります
か?今でも有名人だよ